

1 目的

人権尊重の精神に基づき、人権感覚を磨き、人の痛みの分かる豊かな感性を培うと共に、人権が尊重される学校づくりに向けた具体的な態度や行動がとれる児童の育成を目指すことを目的とします。

2 内容

(1) 人権タイム

毎月1回、全クラス、「人権タイム」を設定している。3～6年までの児童は、「やくそくノート」を活用しながら、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、コミュニケーションスキルを身に付けるための学習活動を行います。

(2) みとめあい・たすけあい・はげましあい集会

12月上旬の「人権週間」にあわせ、人権尊重への理解と人権意識の高揚を図ります。

今年度のテーマは「励まし合い～ やってみよう～ つなげよう」です。集会では、学校生活の中でみんなのためにがんばっている友達を紹介します。互いに支え合って生活していることを確認すると共に、相手への感謝の気持ちの発表を行います。集会の最後には「あなたに ありがとう」の全校合唱をし、仲間と支え合い、共によりよい生活を目指そうとする気持ちを、さらに高めることを目指します。

(3) 教育相談

年に2回、hyper-Q-U検査を行い、それを基に学級担任が、クラスの児童一人一人と教育相談を行います。児童の気持ちや悩み等に気付くことで、児童の心に寄り添った指導を行います。

(4) hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

講師を招き、構成的グループエンカウンターやQ-U検査アセスメントの仕方等の実技研修を通して、学級の実態を客観的に把握し、分析した上で、学級をよりよい方向に導くための方法を教師が学びます。

(5) 「ハッピートーク出前授業」

講師の方を招き、第3学年児童を対象に、言葉の大切さや、良い言葉・悪い言葉について考え、相手を元気にする言葉や幸せにする言葉を進んでつかおうとする姿勢を養います。



【「ハッピートーク」出前授業】

3 評価

(1) 人権タイム

人権タイムにおいて、人との関わり方やスムーズに人間関係を築ける技術を、「やくそくノート」を使って実践的に学ぶことができました。これにより、互いが気持ちよく生活できるスキルが身に付きつつあります。

（２）みとめあい・たすけあい・はげましあい集会



【「がんばったねカード」発表】

全児童が、毎日の生活の中で、みんなのためにがんばっている友達について「がんばったねカード」に書き、集会の会場に掲示したり、代表者が発表をしたりしました。この集会を通して、互いに助け合い、励まし合って生活していこうとする気持ちを、高めることができました。

（３）教育相談

hyper-Q-U検査を実施し、それを基に担任が児童一人一人と教育相談を行いました。いじめの早期発見の機会にするとともに、個々の悩みについてアドバイスを行いました。この取組により、児童の心の不安を取り除くと共に、学校生活不適応が増加することを防ぐことができました。

（４）hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

大学の講師を招き、児童一人一人の学級への満足度を測る hyper-Q-U検査に関する説明、検査結果の見方（アセスメント）とその対応の仕方についてのノウハウの指導を受けました。

また、構成的グループエンカウターの実技講習では、いくつかのエクササイズを体験することにより、教職員の人間関係が深まると同時に、学級集団の親和性を高める上での、構成的グループエンカウターの有効性を実感できました。

（５）「ハッピートーク出前授業」

児童は、ハッピーになる言葉集めの活動や、好きな言葉の発表等、人をハッピーにするプラス言葉について理解を深めました。プラス言葉を意識してつかうことは、心地よい人間関係を築くことにつながることを学びました。この授業を通して、自他を尊重する心を養うことができました。

4 課題

「自分を大切にすると同様に他人を大切にできる」、「人の立場に立って物事を考えられる」という目標を掲げ、人権が尊重される学校づくりに向けて取り組んでいます。児童の中には、知識としてこれらのことが理解できていても、まだまだ十分な実践力が身に付いていないといえます。今後も、人権尊重の実践力を、より確かなものにするため、地道に研究を進めていきます。

『豊かな人間関係を築く、異学年交流ふれ合い活動』

あま市立甚目寺東小学校

1 目 的

ペア学年で小グループをつくり活動することにより、異学年の交流の活性化を図り、仲間意識を高めます。その活動の中で、助け合い、認め合い、思いやり、相手への感謝等、児童に人権が尊重される学校づくりに向けて具体的な態度や行動がとれる実践力を、養うことを目的とします。

2 内 容

各学期に、以下の予定でペア学年での交流活動を行います。

(1) 1 学期

7月上旬に20分間の放課に運動場で、リーダーを中心にして、ペア学年で一緒に遊ぶ機会を設けます。

(2) 2 学期

10月中旬に「ふれあいチャレンジ大会」を実施し、「フリースロー」、「ストラックアウト」、「空き缶積み」、「ドッジビー投げ」、「二人三脚」、「うちわでポン」等の全14の種目から希望する種目を、ペア学年で行います。



【ふれあいチャレンジ大会】

(3) 3 学期

1月下旬に「ふれ合い集会」を実施し、大縄跳び大会を実施します。

毎学期、1年と6年、2年と5年、3年と4年で、2つの学年がペアになって、レクリエーション交流活動を行います。上の学年は下の学年をいたわったり、下の学年は上の学年の子に感謝の気持ちをもったりする等、相手の立場に立った人間関係づくりを学びます。

3 評価

1年と6年、2年と5年、3年と4年の異学年でペアをつくり、交流活動を行うことで協力して活動しようとする姿勢、思いやり、ゆずり合いの精神を養うことができました。また、異学年の仲間との交流を通して友達や教師から認められ、頼られる存在だと感じる体験を重ねることで、子ども一人一人の自己有用感を高めることができました。

4 課題

異学年集団での活動を通して、子ども一人一人の自主性や自己有用感を高めるにはどのような活動を組織したらよいのか、また子どもたちの実態に即した活動計画を作成し、活動内容のさらなる充実を図ることが課題です。

1 目 的

講師や学習支援員を招いて、地域の教育力を取り入れた教育活動を推進します。

2 内 容

（１）特別支援学級の生活単元講師

生活単元の授業において、特技を持った地域の方を講師として招き、工作や調理実習等を行い、生活面で必要とされる技能の習得を図ります。

（２）刷毛の先生（４年生対象）

甚目寺地区が世界に誇る刷毛作りについて講師を招き、話を聞くことで、甚目寺地区の刷毛産業について理解を深めると同時に、地域への愛着や誇りに思う気持ちを高めます。

（３）人権理解教室（６年生対象）

ハンセン病について講師を招き、話を聞くことで、人権についての理解を深めると共に、人権意識の向上を図ります。

（４）星空教室（４年生とその保護者対象）

津島天文クラブの方を招き、星について話を聞くと共に、実際に天体望遠鏡での星空観察を実施し豊かな心を育みます。

（５）そろばん教室（３年生対象）

算数の授業で、講師の先生から、そろばんの歴史や基本的なそろばんの操作について学びます。



【人権理解教室】

3 評価

（１）地域の方による生活単元の授業

地域の方を講師として招いて、クリスマスリース作りや調理実習を行い、児童に必要な生活能力や技能を高めることができました。

（２）刷毛の先生による授業

日本でも有数の刷毛の生産地である甚目寺地区で、実際に刷毛を作っている方々から、刷毛の歴史・作り方・働くことの苦楽などの話を聞くことで、甚目寺地区の刷毛産業について理解を深めることができました。地域を誇りに思う気持ちを高めると共に、正しい勤労観・職業観を養うことができました。

（３）人権理解教室

小笠原博士の偉業について学ぶとともに、正しい知識をもたないことからくる差別について、考える機会を持ちました。その中から、誰もが幸せに生きる権利をもち、それを侵害することは許されないという態度を養いました。

（４）星空教室

星空教室で講師の先生から、星についての話を聞いたり、星に関するビデオ

を見たりしました。自然の美しさ，雄大さ，神秘性を感じるこの星空教室を通して、子どもたちに豊かな心を育むことができました。

（５）そろばん教室

講師の先生から、テキストを使ってそろばんの基本操作を学び、そろばんによる数の表し方について理解すると共に、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようになりました。

4 課題

専門的な知識や、これまで積み重ねてきた経験に基づいた講師の方の一言一言は、重みがあり、児童の心に響くものでありました。今後も、機会あるごとに地域の方の専門的な知識と技能を活用していきます。今後、地域の専門的な知識と技能を持った方々を、いかに発掘し活用していくかが一番の課題です。